

5月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

令和4年5月のD I値は8指標中、「収益状況」と「資金繰り」が上昇し、「景況」と「設備操業度」が横這い、「売上高」「販売価格」「取引条件」「雇用人員」の4指標においては下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

今月は出荷量や売上げが回復傾向にあるとの声や、先月に引き続き衣料品が好調であること、旅行業では県民割の再開で問い合わせ対応に忙しかったなどの明るい報告があった。

しかし、どの業種からも先行きの不透明さに対する不安の声が多くあり、新型コロナウイルス感染症の影響の残る中、中国のロックダウンによる物流の遅れや、ウクライナ侵攻による光熱費、原材料費、燃料費の高騰、更に円安による小売価格の高騰などで多くの事業者が対応に苦慮している。また、人材確保や価格転嫁も課題として残っており、今後も厳しい状況が予想される。

ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中で、原材料価格の上昇や供給面での制約に加え金融資本市場の変動による下振れリスクに十分注意する必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

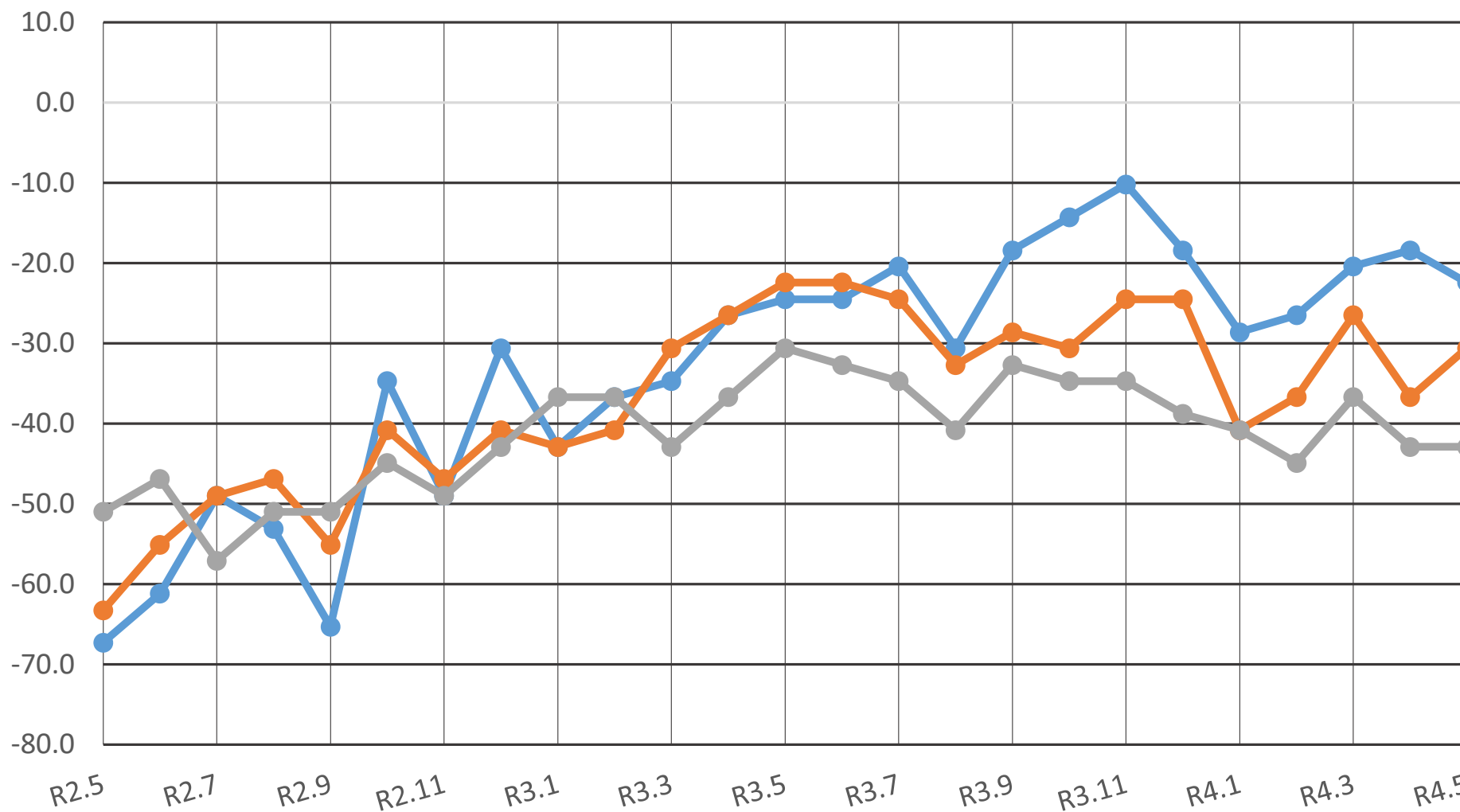
	R3								R4					前月比 増減
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
景況	-30.6	-32.7	-34.7	-40.8	-32.7	-34.7	-34.7	-38.8	-40.8	-44.9	-36.7	-42.9	-42.9	0.0
売上高	-24.5	-24.5	-20.4	-30.6	-18.4	-14.3	-10.2	-18.4	-28.6	-26.5	-20.4	-18.4	-22.4	-4.0
収益状況	-22.4	-22.4	-24.5	-32.7	-28.6	-30.6	-24.5	-24.5	-40.8	-36.7	-26.5	-36.7	-30.6	6.1
販売価格	12.2	18.4	18.4	12.2	18.4	12.2	14.3	18.4	22.4	16.3	18.5	18.4	16.3	-2.1
取引条件	-18.4	-8.2	-12.2	-16.3	-14.3	-6.1	-8.2	-8.2	-16.3	-24.5	-16.3	-12.2	-16.3	-4.1
資金繰り	-20.4	-14.3	-16.3	-14.3	-10.2	-12.2	-16.3	-16.3	-16.3	-20.4	-20.4	-16.3	-14.3	2.0
設備操業度	-6.1	-6.1	-4.1	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	-2.0	-4.1	-10.2	-8.2	-6.1	-6.1	0.0
雇用人員	2.0	-2.0	-10.2	-8.2	-8.2	2.0	-10.2	-2.0	-10.2	-10.2	-12.2	-6.1	-8.2	-2.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

徳島県中小企業団体中央会

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比で味噌の生産量は91.8%、出荷量は102.4%であった。前月比で味噌の生産量は108.6%、出荷量は107.8%であり、前年度に対して出荷量ではやや回復しており、前月比では2ヶ月続けて上向いている。コロナ感染者数はいまだ減少しないが、行動制限が緩和されてきた事により外食需要が回復しつつあると思われる。原料価格、エネルギー価格の高騰による生産コストの上昇により、収益面での回復の遅れが新たな課題として現れてきている。
2. 漬 物・漬物製造業者では前年に比べ販売が上向きになってきているが、消費者の健康志向により漬物自体の販売の先行きに不安を感じている。漬物業・農家ともに労働力の不足に悩んでいる。技能実習生の入国が再開しているものの、引き続き人員確保が出来ていない状況である。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・人が徐々に動き出し、ブランドの販売実績は少しずつ伸びていると各社から報告を受けていますが、まだまだ、コロナ前に比較するれば悪い。製造については中国のロックダウンで思うように商品が入荷せずに販売時期を逃しているブランドも多く、為替の問題含め今後、生産国を見直すとの事ですが、もし日本に戻って来たとしても値段が合わない点が大きな問題と思われる。
4. 縫 製・自動化による生産効率向上がまだ整っていない中、労働力不足は相変わらず続く模様。設備等の生産体制を中長期的に再構築を進める中、現状とのギャップが埋めきれない状態にあるので、コンサル等によるテコ入れを図ってるが、当面は従来の備蓄生産が主流となる。原材料費はほぼ全取引において値上げ交渉が続いており原価にかかる負担額が確実に増えつつある。

<木材・木製品>

5. 製 材・原木の不足に加え光熱費や燃料代の高止まりなどもあり、現状の業績が好調であっても先行きを不安視する声が多い。世界情勢の不透明さが不安感を煽っているよう。徳島県の住宅着工については下げ止まりの様子。
6. 木 材・木材は5月が来ても市場の価格は上がる一方で、なかなか落ち着くところがありません。他の建築素材業者も同様らしく、木材だけがという事ではないみたいです。とにかく、これから家を建てようと考えている人たちにとっては大変難しい時代になってしまったなと言うのが感想です。

7. 製 材・一進一退の状況で先行き不透明である。

<印 刷>

8. 印 刷・5月は連休の影響で慌ただしいスタートとなった。働き方改革も含め休みが多く、売上も上がりにくい。用紙や原材料費の高騰も価格転嫁には進んでいない。引き続き益々厳しい状況が予想される。また、ウィズコロナで脱マスクの推進やイベント開催の規制制限も緩和してきている。経済活動再開が6月～7月にかけて印刷物に繋がっていくか動向を注視していきたい。

9. 印 刷・今年の5月は前年の5月に比べると緊急事態宣言もなく、売上高、収益状況とも改善された月になったが、今年の5月はお客様の広告・宣伝に対する意欲も少なく、またペーパーレス化も徐々に進んでいるため苦しい月になった。用紙の値上げ、資材の値上げを含め、色々なものが値上げになりますます苦しい月が続くそう。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・5月の出荷量は昨年同月と比べて約5%増加したが、大型連休もあり最終的に出荷量は低迷した状態。ただ出荷予定数量は今のところ昨年度同月とあまり変わらないので、今後の出荷量は天候に左右される。

11. 生 コ ン・5月の出荷数量は、対前年同月比14%減であった。要因としては民間での小口工事はあるものの、官での大型工事が終わりそれに代わる新規物件の減少による。収益状況については、原材料であるセメント価格の引き上げに続き、骨材・混和材などの値上げも同様にメーカーから要請されており、又燃料代の引上げも重なり更なる厳しい状況に変わりない。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感は持ち直しの動きが見られたものの、円安や原材料の高騰により足踏み状態が続くなかウクライナ危機の長期化で、なお、今後も価格上昇が見込まれ厳しい状況が続くと思われる。

13. ス テ ン レ ス・新型コロナウイルス感染数は下げ止まりの傾向が継続しており、まだまだ油断は出来ない状態ではあるが、国内外ともに企業活動再開に向けた動きが活発化しており、感染対策を実施しながら対応を進めている。また、材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化、原油高は継続しており、加えて円安状態の長期化も懸念され、先行きの不透明な状態も継続している。

<一般機器>

14. 機械金属・新型コロナウイルスの感染状況、ウクライナ情勢等の影響により、営業活動の停滞、半導体不足や原油価格の高騰等から、売上高や引合いなどに厳しい状況が見られ、一部に景況感の持ち直しの動きも見られる一方、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境が懸念される。また、需要の停滞をはじめ、原材料価格、輸送費等の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧卸・原材料費は低迷しているが、光熱費・燃料費の上昇が続く。

<小売業>

16. 機械器具・円安の影響が加わり、小売価格が3割上昇したのものもある。それに伴い消費マインドがかなり低下した。
17. ショッピングセンター・4月の前年対比は売上99.6%、客数96.3%でわずかに届きませんでした。先月の連絡票に「1月から4月にかけてコロナ感染者が減少するに伴って、前年対比の数字が良くなって来ている」と書きましたが、今月も当てはまると思います。5月に入り再び100人を超える日が5/7~5/27の間に25日ありました。コロナ禍の原因で前年に少し届かなかったと考えられなくもありません。業種別には衣料品104.5%、身の回り品100.8%、食品99.6%、住居関連89.4%となっており、4月・5月は衣料品が好調です。
18. 畳小売業・連休明けに荷動きはあったが、それ以降は低調。メーカーからの資材値上げの案内もきているが、在庫を買い備えるところもあまりなし。新築現場の引き渡しも少なかった。
19. 電気機器・商品物流の遅延や、工事部材等の値上げ等も影響し、景況はあまり良くない。また、依然としてコロナ感染拡大が消費者の購買意欲に影響を与えている。

<商店街>

20. 徳島市・GWも依然として人が少ない。厳しい状況が続いている。
21. 徳島市・5月に1店舗閉店した。夜間や土曜夜の人出は戻ってきてつつあるが、売上にはつながっていない状況である。
22. 鳴門市・仕入れなどあらゆる値上げがありました。材料など不足し、在庫が確保できないものが沢山あります。売上は前年と変わらず、需要はそこそこあると思っております。

<サービス業>

23. 広告業・仕入れ価格がほぼ全て10%は値上がりしている。毎月のように値上がりの案内が来る状況の中、販売価格を比例して上げることは、顧客が離れてしまうおそれがあるため出来ない。
24. 土木建築業・人員増加により人件費がわずかに上昇。コロナ対応、対策のため、テレワーク・リモート設備等に投資し充実させ、1室借増したことで事務所経費が増加。
25. 自動車整備業・5月度の新車販売状況については、登録車の中古車登録台数がかろうじて前年度割れしなかったものの、それ以外はすべて前年度を下回る結果となった。特に大きい落ち込みは、軽自動車の新車登録台数で、対前年度比-15.9%、ついて登録車の新車登録台数が-13.1%であった。新車の落ち込みが大きく、トータルでは-10%となった。今後の自動車生産見通しについて、大手サプライヤーは依然として車載半導体をリスク要因の筆頭と見ており、年内の需要緩和は難しいとの見立てのようだ。上海でのロックダウンは実質的に解除となり、今後は中国経由の部品不足は徐々に改善される見通しだが、物流混乱などで部品不足がすぐに解消されるわけではなさそうだ。半導体不足の影響も続き、販売への影響はまだ続くとみられている。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車は0.8%増、軽自動車は-0.1%減となり、前年度とほぼ変わらない結果であった。
26. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境が予想され、これらに対応するべき事業活動に当たる必要があります。特に最低賃金の引上げによる経営圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。依然としてコロナ感染者は高止まりが続いていますが、ワクチン接種率が向上し、ウィズコロナの意識も広まり、ホテル分野のメンテナンス業では客室や各種宴会場などの稼働率も向上し、売り上げは回復基調にあります。一方、病院等の医療施設におきましては、コロナ感染防止対策による清掃範囲の減少、定期清掃の中止等により、価格見直し(減額)は継続中であり回復のめどはたっていません。こうした中、来るべきコロナ収束後に備え従業員の定着及び補充活動も経営課題として取り組んでいます。以上のほか、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところです。
27. 旅行業・県民割の日帰りプランを売りにした組合員は、お客様からのお問合せ等の対応が久々に忙しかったところもあるが、ブロック割になり県外へ支店を持たない(協)徳島県旅行業協会の組合員は扱えなくなった。コロナだけでなく、ウクライナ情勢緊迫化による物価上昇で旅行業へも影響が心配される。

<建設業>

28. 建設業・資材が高値となっている。国土交通省、県、市町村とも、対前年比で発注件数(-1.4%)及び請負金額(28.4%)ともに減少している。
29. 板金工事業・4月同様、新築上棟数は減っている。原因は6月以降の値上げを見越しての各材料メーカーの出荷制限によるものと思われる。
30. 鉄骨・鉄筋工事業・材料の値上げがまだ止まらない。
31. 電気工事業・新設住宅口数は270件で、昨年同月比128.6%と上昇した。

<運輸業>

32. 貨物運送業・トラック運送業界は、新型コロナと連休の影響で稼働率は低下。ロシアのウクライナ侵攻による原油高を受け軽油単価は国の補助があるものの上昇基調で、また運賃値上げが難しい中、今期も経営は厳しい状況に置かれている。
33. 貨物運送業・運送事業者からは引き続き燃料価格高騰で非常に苦しい経営状況の声を多く聞く。それに加え、運送事業者が抱えるクリアすべき課題は多い。もともと国が示す標準運賃は、まず運賃があり、別途に待機時間料、積込料、取卸料、附帯業務料の料金、そして実費として高速道路料金やフェリー利用料、消費税が発生する。しかしながら現状の運送料金は標準運賃はもとより、実費を収受できていないのが実情であり、この問題を粘り強く、燃料サーチャージとあわせて荷主と交渉していかなければ、運送事業者はますます厳しい状況に追い込まれることになる。